

雜載

書卷川（このがのわたりと同じ流なり、水上をいふなり、）

延喜式兵部二十八諸國健兒略○中下總國一百五十人○中

諸國器仗略○中下總國甲五領、橫刀十六口、弓五十具、

〔續日本紀三光仁三十三〕寶龜六年三月乙未始置略○中下總少目二員、

類聚三代格十六太政官符

應造浮橋布施屋并置渡船事略○中

一加增渡船十六艘略○中下總國太日河四艘元二艘、今加二艘○中略

以前被從二位行大納言兼皇太子傳藤原朝臣三守宣稱奉勅如聞件等河東海東山兩道之要路也、

○中但渡船者以正稅買備之略○中

承和二年六月廿九日

〔萬葉集十四東歌〕可豆思加乃麻萬能宇良末乎許具布禰能布奈妣等佐和久奈美多都良思母、

右一首下總國歌略○中

相聞略○中

可都思可能麻末能手兒奈乎麻許登可聞和禮爾余須等布麻末乃氏胡奈乎、

可豆思賀能麻萬能手兒奈家安里之可婆麻末乃於須比爾奈美毛登杼呂爾、

爾保杼里能可豆思加和世乎爾倍須登毛曾能可奈之伎乎刀爾多氏米也母、
安能於登世受由可牟古馬母我可都思加乃麻末乃都藝波思夜麻受可欲波牟、

右四首下總國歌

〔更科日記〕昔下つさの國にまの、長といふ人住げり、引ぬのも千むら万むらをらせさらさせけるが、家の跡とて、深き川を船にてわたる、昔の門の柱のまだ残りたるとて、おほきなる柱川の中